



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和3年3月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数372人

放牧主義

校長 清水 励

令和2年度の最後の月となりました。過日行われた令和3年度PTA役員選出では、多くの保護者の方々の御協力をいただき、無事に次年度役員の方々が選出されました。新年度役員となられた方々には、お忙しい中での活動と存じ上げますが、どうぞよろしくお願いいたします。また、今年度役員をお勤めいただいた方々には、「すべては子どもたちのために！」という本校PTA運営方針に沿った温かな御支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

さて、**子供たちが一人一台のパソコンを使用し始めて1か月少々が経ちました。**「授業の中で、どんどん使っていきましょう！」という教職員の共通理解のもと、市内パイロット校の一つとして、授業での実践を重ねながら検討と検証を行っているところです。子供たちは、自分の考えや調べたことなどをシートにまとめ、クラス内で発表したり、友だちと意見交換したりすることを楽しみながら行っています。また、ドリルソフトで漢字や計算の問題に取り組んだり、内臓カメラやプレゼンソフト等を使ってプレゼン資料を作成したり、プログラミング教育の授業でプログラミングをしたりするなど、様々な場面で自分専用のパソコンに触れています。あわせて、よりよい情報社会の一員となれるよう「デジタル・シティズンシップ教育」にも取り組み始めました。その1時間目には「デジタル足跡」等について学び、授業後の子供たちの感想の多くには、**「パソコンは使い方を間違えると怖いと思った。でも、便利で楽しいものなので、自分も他人も傷つかない方法を考えて使っていきたい」**と書いてありました。

少し前までは、「できること」と「できないこと」の境目と、「すべきこと」と「すべきでないこと」の境目は比較的近くにあり、日常生活で学ぶ道徳や安全に関する知識があれば、ある程度は危険を避けることができました。しかし、インターネットの世界は、技術の進展と普及の速度が速い上に、操作方法を覚えてしまえば、誰でも「すべきでないこと」を簡単に行えてしまう側面があり、また、日常のモラルと異なる判断基準や考え方をしなければならぬこともあります。ですので、大人が先回りしすぎて「危ない（と思われる）ものを遠ざける」というような方法で、子供たちの安全を確保しようとする傾向が、さらに強くなってしまいがちです。もちろん「子供たちに大きな危険」は、大人が排除すべきことですが、「危ない（と思われる）ものを遠ざける」だけでは、大人としての責任を果たしていないように思えてなりません。「危険を遠ざけるだけ」で、果たして子供たちが自分で判断し行動できるようになるのか…もしかしたら、大きな宿題を先送りしているだけではないか…と思うことがあります。

先日手にした冊子に、埼玉県経営者協会の方が執筆された「これからの学校教育に望むこと」という記事の中に、深く共感する言葉がありました。それは「**放牧主義**」という言葉です。これは、子供たちを禁止や規制などで行動を制限しすぎる「**管理主義**」と、すべてを子供任せでほったらかしの「**放任主義**」の中間にあたるものです。**「子供たちが、ある程度の安全が確保された大人の目の届く範囲（柵の中）で、行きたい所へ行き、やりたいことができる自由を確保する。大人は、子供たちの多少の失敗は予想しつつも遠くで見守り、子供たちが自分で気づき発見し、内面からゆっくりと学ぶ事を大切にして、結果を不要に急ぎすぎない。」**ということのようで、学校で大切にすべき子供への姿勢だと思えます。

子供たちが生きていく今後の社会のあり様を見通しながら、必要なことをどのように学ばせるか十分に考えなければなりません。多くの子供たちは、情報端末を使って人や社会とつながり、仕事の道具としても今以上にICTを利用することは確実です。子供たちの学力の向上とともに、情報社会の一員として、自分の判断で適切にICTを利活用できる基盤づくりのためにも、学校と家庭の相互理解・連携をより一層深め、日々の教育活動を行っていききたいと思えます。